

高鍋町の 先賢と文化財



第六番 鬼神舞

高鍋神楽

県指定「無形民俗文化財」
(昭和44年〈1969年〉)

・
国選択

「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」
(昭和53年〈1978年〉)

高鍋神楽は、旧高鍋藩領内の神社で伝承、奉納される比木神楽系、三納代神楽系、都農神楽を中心とした神楽の総称で、高鍋町、新富町（一部地域）、木城町、川南町、都農町、東児湯5町と美郷町（旧南郷村）で、現在に受け継がれています。高千穂神楽・銀鏡神楽（たかちほかぐら・しろみかぐら※1）とともにその伝統芸能を誇るもので、舞いは高尚優美、勇壮活発なのが特徴で現代に風雅を伝えます。毎年、高鍋町・新富町・木城町・川南町の4町の神社の輪番で大神事を行い、夜を徹して高鍋神楽を奉納しています。

（※1）高千穂神楽（高千穂町）・銀鏡神楽（西都市）ともに国指定重要無形民俗文化財です。

高鍋神楽 | Takanabe Kagura

由来

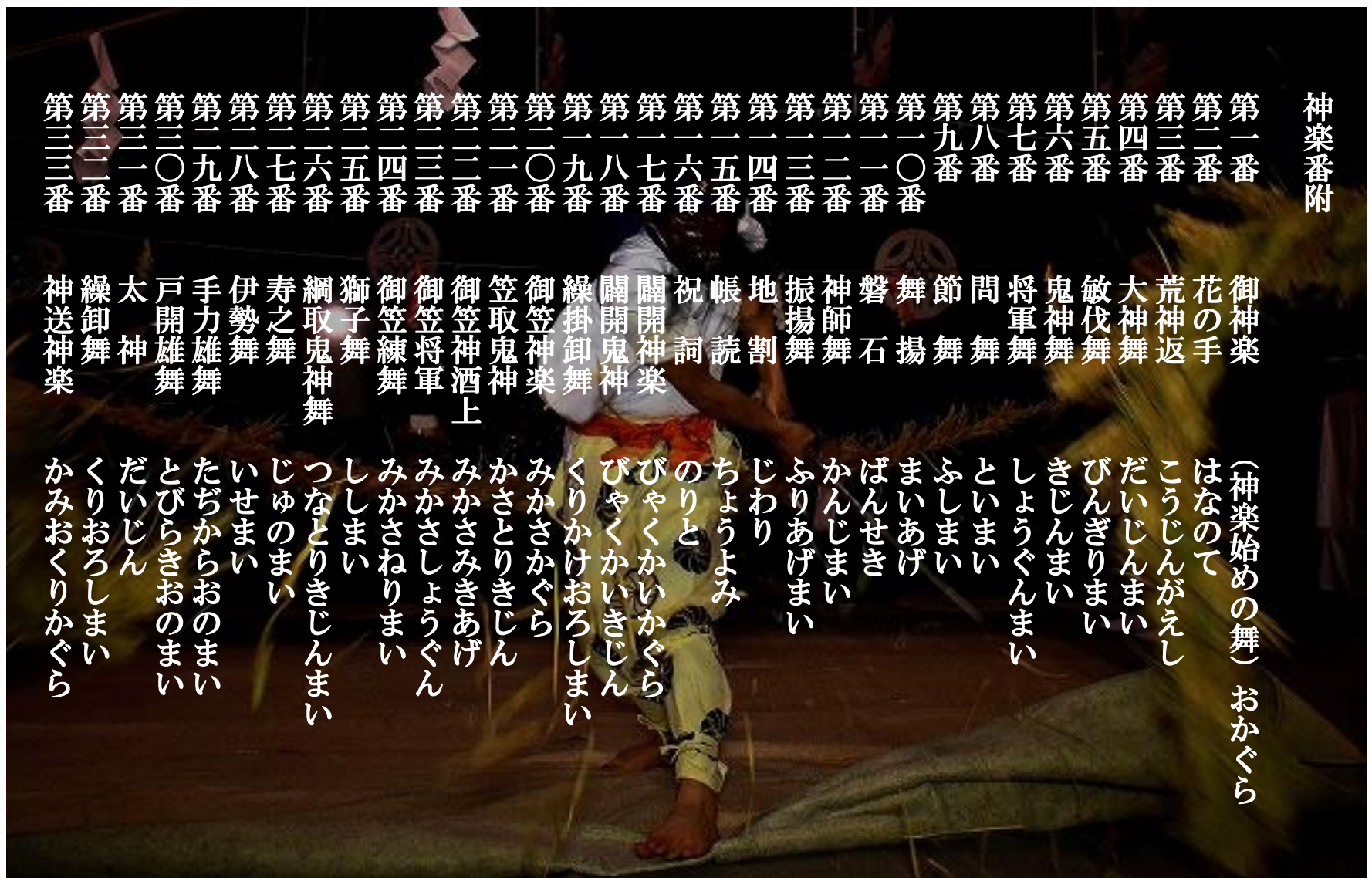
高鍋神楽の起源は定かではありませんが、口碑（こうひ）昔からの言い伝え）や神社の遺物から、平安時代から舞われていたと推測されています。高鍋町では古くから、比木神社（ひきじんじや・木城町）のお里まわりという神事が行われていますが、別に、神門神社（みかどじんじや・美郷町南郷区）への御神幸（ごしんこう）祭りや遷宮などのとき、神体が鎮座する神社から他所へ赴くこと。も毎年厳重に続けられており、この際に高鍋神楽が奉納される習わしです。高鍋神楽はこの比木神社、神門神社を中心として発祥したものと思われます。藩政時代は、藩主・秋月氏の奨励保護のもとに神楽道具などの下賜（かし）し身分の高い人から下さる（くださ）ることもあり、藩祭として「大神事」が行われており、現在に及んでいます。

高鍋町鎮座の八坂神社・愛宕神社（やさかじんじや・あたごじんじや）、新富町の三納代八幡神社（みなしろはちまんじんじや）、木城町の比木神社（ひきじんじや）、川南町の平田神社・白鬚神社（へいだじんじや・しらひげじんじや）、の6社において、例年旧暦12月2日宵から翌3日夜明にかけて盛大に神楽が奉納されています。これは、当番の神社が順番に受け持つもので、この行事の事を、六社連合大神事（ろくしゃれんごうだいしんじ）といっています。

変遷

数百年にわたる古い伝統の歴史を持つ高鍋神楽は、明治時代以降は公共の保護もなく敬神の心も薄れ、衰退の危機がありました。が、有志により大正6年（1917）伊勢神宮奉納神楽に栄誉ある参加をし、高く評価されたことで有名になりました。しかしその後、太平洋戦争の戦禍の中、再び神楽の伝承も危機に直面するようになったのです。これを憂う人々の尽力により昭和30年頃から保存活動が起り、高鍋町、木城町、川南町、都農町の神職有志により保存会が結成され、その後度々の研究討議が重ねられ、現在の「高鍋神楽保存会」に至りました。

平成29年（2017）には、大正6年の伊勢神宮神楽奉納から100年を記念して、再び伊勢神宮にて高鍋神楽が奉納されました。



神楽番附

- | | | |
|------|-------|---------------|
| 第一番 | 御神楽 | (神楽始めの舞) おかぐら |
| 第二番 | 花の手 | はなのて |
| 第三番 | 荒神返 | こうじんがえし |
| 第四番 | 大神舞 | だいじんまい |
| 第五番 | 敏伐舞 | びんぎりまい |
| 第六番 | 鬼神舞 | きじんまい |
| 第七番 | 將軍舞 | しょうぐんまい |
| 第八番 | 問舞 | といまい |
| 第九番 | 節舞 | ふしまい |
| 第一〇番 | 舞揚 | まいあげ |
| 第一一番 | 磐石 | ばんせき |
| 第一二番 | 神師舞 | かんじまい |
| 第一三番 | 振揚舞 | ふりあげまい |
| 第一四番 | 地割 | じわり |
| 第一五番 | 帳読 | ちようよみ |
| 第一六番 | 祝詞 | のりと |
| 第一七番 | 關開神楽 | びやくかいかがら |
| 第一八番 | 關開鬼神 | びやくかいきじん |
| 第一九番 | 繰掛卸舞 | くりかけおろしまい |
| 第二〇番 | 御笠神楽 | みかさかぐら |
| 第二一番 | 笠取鬼神 | かさとりきじん |
| 第二二番 | 御笠神酒上 | みかさみきあげ |
| 第二三番 | 御笠將軍 | みかさしょうぐん |
| 第二四番 | 御笠練舞 | みかさねりまい |
| 第二五番 | 獅子舞 | ししまい |
| 第二六番 | 綱取鬼神舞 | つなとりきじんまい |
| 第二七番 | 寿之舞 | じゆのまい |
| 第二八番 | 伊勢舞 | いせまい |
| 第二九番 | 手力雄舞 | たちからおのまい |
| 第三〇番 | 戸開雄舞 | とびらきおのまい |
| 第三一番 | 太神 | だいじん |
| 第三二番 | 繰御舞 | くりおろしまい |
| 第三三番 | 神送神楽 | かみおくりかぐら |

高鍋神楽 | Takanabe Kagura

高鍋神楽は、昭和53年(1978)、国の記録保存無形文化財の選定を受け、翌年54年には県指定高鍋神楽縁起書が作成され、国の選定のための記録画作成を開始しました。その後も様々な活動を経て、平成31年(2019)記録作成のための準備調査が開始され、令和2年(2020)高鍋神楽記録作成調査委員会が正式に立ち上げられ、高鍋神楽の国指定に向けた記録作成のための調査が継続して行われています。

高鍋神楽の運営組織

高鍋神楽は現在「高鍋神楽保存会」と「高鍋神楽会」の2つの組織が運営を行っています。

高鍋神楽保存会：神楽講習会や各種研修を開催しています。

事務局は、高鍋町、木城町、川南町、都農町の教育委員会が2年ごとに努めています。

お問合せ先：高鍋町教育委員会 社会教育課 文化係
電話 0983・23・3326

高鍋神楽会：神楽の講演依頼などの窓口を担当しています。

主に高鍋神楽の保存継承に努め、会員の親睦を図ることを目的としています。

お問合せ先：高鍋神楽会事務局(都農神社)
電話 0983・25・3256



第一〇番 舞揚

神主の一人舞。
猿田彦から杖を授かった感謝の舞といわれている。

2018年愛宕神社での神楽奉納の様子